

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立久喜高等学校 定時制 )

e03

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	基礎学力の充実を図り、将来に希望を持たせ、生徒全員の進級・卒業を実現できる学校
重点目標	1 生徒の授業参画意識を高め、一人一人に応じた学びを支援し、基礎学力の向上を図る。 2 健やかな心身の育成を図り、将来の生き方を考えさせ、希望進路の実現を図る。 3 学校情報を積極的に発信し、地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を推進する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	3名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※番号欄は

重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					実 施 平 成 3 1 年 2 月 7 日			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	学習の振り返りが必要な生徒、学習習慣が身につけていない生徒、不登校傾向の生徒、日本語が母国語でないため日本語の理解力が不足している生徒等が少なくない。	○コミュニケーション能力、基礎学力等の向上、学習習慣等の確立を目指した生徒支援体制の一層の充実	①生徒の登校・授業への出席を習慣化させるため、保護者への連絡を密に行い、全教職員で情報を共有し、日常的に指導を行う。 ②個に応じた授業を実施するため、生徒の実態を的確に把握し、基礎学力が不足している生徒等には、教員や支援員等による組織的で継続的な始業前補習等を行う。	①出席率の上昇が実現できたか(昨年度91.2%)。 ②4月から教員や支援員等による組織的な補習体制が実現できたか。また成績優良者数増加や成績不振者数減少が実現できたか(昨年度、成績優良者23.3%、欠点保有者18.6%)。	達成状況は概ね満たした。個々の生徒の学習状況に応じた授業や組織的な体制での補習等はほぼ達成できたが、出席率、成績優良者数等の向上が課題。 ①出席率89.8%(昨年度比1.6%減)。 ②今年度も5月から学習サポーター(週2回)を配置。成績優良者18.4%(昨年度比4.9%減)。欠点保有者18.7%(昨年度比0.1%増)。	B	・個に応じた授業の実施、基礎学力不足の生徒等を対象とした組織的な始業前補習を継続する。 ・早期から近隣の大学に学習サポーターの募集を行い、次年度も年度当初から配置となるよう取り組む。	・始業前補習では、教員や学習サポーター等による組織的な取組が、生徒の学習に繋がっている。大変であると思うが、継続して取り組んでもらいたい。 ・授業見学を行ったが、生徒の授業に対する前向きな態度が伺えた。今後も少人数クラスの利点を活かし、個々の生徒に合わせた授業展開を願う。
	個々の生徒が抱える課題の解決に向けて、効果的・継続的な支援を実施することが必要である。また、全教職員の共通理解の下で生徒の支援を行う必要がある。	○保護者と連携し、個々の生徒の課題を把握して個に応じた課題解決のための取組を推進	①早期に生徒の社会性を向上させるため、ソーシャルスキルトレーニングを1学期に6回実施する。 ②教育局の事業「高校生自立支援事業」を最大限活用。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門性も活用し、全教員の共通理解の下、質の高い支援を行う。	①生徒の8割以上がソーシャルスキルの向上を感じられたか。 ②個々の生徒の課題解決を教員共通理解の下で、組織的・継続的に支援できたか。また中途退学者数が昨年度より減少したか。	達成状況はほぼ満たした。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、サポートステーションとの連携を密に行った。 ①ソーシャルスキルトレーニング後の生徒アンケートでは14項目中11項目(79%)でスキルが向上したと回答。 ②教育局の事業では、サポートステーション担当者とともに実施。中途退学者は昨年度比2名減。	A	・教職員の組織的な指導体制を強め中途退学者数の減少を目指す。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門的な意見を受ける機会を定期的に設ける。 ・生徒支援を継続するため、高校生自立支援事業を最大限に活用する。	・ソーシャルスキルトレーニング等の取組が、生徒の主体性に繋がっていると考える。今後も効果的に行ってもらいたい。 ・退学者数が減少したことはすばらしい。学校のこれまでの様々な取組の結果が退学者減少に結びついていると考える。今後も期待する。 ・「学校のために何かやりたい」という意識の高い生徒が多い。今後も継続した指導を願う。
2	多様な生徒が在学している中、今後も教員間で共通理解に基づいた組織的な生徒指導が必要である。昨年度は自転車交通事故1件。今後も交通事故ゼロに向けた取組の継続が必要である。	○共通理解に基づく組織的・継続的な生徒指導の推進と生徒支援体制の充実	①問題行動やいじめ等の未然防止に努めるため、年3回の三者面談(特に課題のある生徒は管理職も同席)を継続する。 ②交通安全に関する意識を向上させるため、年3回の交通安全指導を継続する。	①問題行動、いじめ等の早期発見と未然防止が実現できたか。 ②交通事故発生件数ゼロが実現できたか。	達成状況は、概ね満たした。教員間の共通理解に基づいた指導の継続が必要。 ①全教職員で日常的に生徒に声掛けを実施。いじめ認知件数ゼロ件を継続。 ②交通事故発生件数ゼロ件を継続。	B	・組織的・継続的な生徒指導を実施し継続した生徒支援体制の充実。いじめ認知件数ゼロ、生徒指導件数ゼロ、交通事故件数ゼロを目指す。	・生徒会に所属している生徒から「生徒の仲が良く、話し合いながら学校行事を行っている」と伺った。生徒同士の関係が構築されていることが「いじめ認知件数ゼロ」に結びついている。交通事故件数ゼロと共に継続してもらいたい。
	昨年度の卒業生の中で1名がアルバイト継続を希望し、卒業に至ったことに鑑み、卒業時の進路未決定者ゼロ、特に就職希望者は正社員での決定を目指した指導が今後も必要である。	○生徒の進路希望を踏まえ、第1希望を実現する組織的・計画的な進路指導の取組の推進	①行事・LHRの時間等を活用し、段階的なキャリア教育を各学期に実施する。 ②生徒の進路希望に応じた指導を希望が実現するまで継続する。 ③進路意識を高揚させるため「高校生自立支援事業」等を活用し、進路に関する講演会、就労体験等を行う。	①行事・LHRを活用した進路指導が計画的に実施できたか。 ②卒業時の進路未決定者ゼロが実現できたか。 ③組織的、計画的に進路講演会、就労体験等を実施し、生徒の満足度が増加したか(昨年度90%)。また、生徒が希望する企業等で就労体験が実施できたか。	達成状況はほぼ満たした。他学年の進路意識向上に向けた指導の継続が必要。 ①年間計画に基づき進路行事を実施し生徒の意識を向上。 ②第1希望の進路実現7名中6名。 ③進路説明会満足度94.0%、就労体験満足度3名中2名「満足」、1名「どちらともいえない」と回答。就労体験受入れ先は生徒に事前調査(新規)。受入れ先1社を拡大。	A	・計画的な進路指導を実施し、進路未決定者ゼロを目指す。また生徒の第1希望の進路決定率を更に向上させる。 ・組織的な進路指導体制を継続させる。就労体験を継続し生徒の進路意識の定着を図る。就労体験受入れ先は生徒のニーズに合う企業等になるよう取り組む。	・就職希望者に対する求人数が増加しているが、生徒が主体的に就職活動を行うように、今後も指導してもらいたい。 ・就労体験を行ったことで、未就労者であった生徒が、就労に結びついたことは評価に値する。今後も継続して生徒の指導に取り組んでもらいたい。
3	公開授業週間、学校説明会、学校ホームページ等を活用して学校情報を発信しているが、さらに積極的に継続的な発信を行い、学校理解を深化・定着させる必要がある。	○工夫・改善した積極的な学校情報の発信	①中学生・保護者等の希望に合った学校説明会となるよう実施内容を改善する。 ②学校新聞の発行と、中学校、地元自治会への配布、回覧を継続する。また、配布、回覧箇所を拡大する。 ③学校ホームページをほぼ毎日更新し、中学生、保護者等による学校理解をさらに深化・定着させる。	①参加した生徒、保護者等のアンケートから、8割以上の満足度が得られたか。 ②学校新聞の発行回数や、配布、回覧数の増加が実現できたか(昨年度比)。また、生徒の意見等を掲載した学校新聞となったか。 ③学校ホームページの更新が、ほぼ毎日実施できたか。	達成状況はほぼ満たした。継続が課題。 ①学校説明会では参加者から高い評価あり。夕方の説明会を13回実施(昨年度比1.3倍増、参加者1.7倍増) ②学校新聞を毎月1回発行、近隣38中学校(昨年度比1.5倍増)3年生全クラスに配布。学校周辺の17区(昨年度比1.5倍増)の3564世帯に回覧。給食献立も毎月1回発行。 ③学校の教育活動を学校ホームページにほぼ毎日掲載。	A	・継続して学校新聞や給食献立等の作成、配布、学校ホームページ掲載を行う。 ・学校ホームページを最大限に活用し、学校情報発信回数を増加させ、保護者、地域に学校への理解を深化・定着させる。	・夕方の説明会では、実施回数を増加したことで、参加人数も増加させた。次年度も継続を期待する。 ・学校新聞の配布、回覧、学校ホームページのほぼ毎日の更新等素晴らしい取組である。地域への学校情報の発信だけではなく、本校へ入学を希望する中学生等にとっては、大いに励みになると考える。今後も継続を期待する。